

名古屋水

発行所
陵水会名古屋支部
名古屋市中区栄
4丁目21番11号
(株)サンワ内
TEL 052-241-0151
FAX 052-261-5715
発行責任者 吉田直正
印刷所 中経総合印刷
☎0569 (21) 2426(代)

200名突破 大いに盛り上がる!!

イチローの父「イチロー特別対談」打率ピツタリ賞出る!

・新しい企画作り

毎年盛会の評判高い「陵水会名古屋支部総会」が、平成14年6月7日(金)に恒例の名鉄グランドホテルにて開催されました。

今年、大学15回卒が実行委員会となり、過去最大の動員目標200名突破目指して、新しい企画に取り組んできました。まず、第一の目玉はアメリカ大リーグ「マリナーズ」で活躍中の愛知県出身の「イチロー選手」の父親である「イチロー」の特別対談企画です。対談は、良き対談パートナーが要ですが、この役目を吉田支部長にお願いしましたが、難しい対談進行を絶妙の呼吸で成功裡に終える事が出来ました。

第二の目玉は、名古屋支部総会の

クイズが株価当てが恒例ですが、こ

こはイチローの出番とばかりに「6月7日 イチロー打率クイズ」、更に参加者からイチローへの質問も募集し、これも返信ハガキの全員が打率記入と6割が質問記入の好感度でした。

第三の目玉は、従来懇親会の司会はプロのアナウンサーを起用してきましたが、コスト削減と手作り企画をイメージして、陵水会メンバーの中から、若手女性を探し出す事が出来、実行委員会のメンバーの意気も大いに上がりました。

・参加動員は

200名突破「208名」!

新しい三つの企画が功を奏した事に加え、実行委員会メンバーも200名突破の執念に燃えて、それぞれ

が自分たちの企業グループレの動員に相当圧力(?)をかけたたり、前年実行委員メンバー、次回メンバー等節目の年度(17回、25回、35回)など幅広いご協力も得る事が出来ました。また、初の女性司会者・名古屋鉄道金の澤清美さんの協力も女性を動員する目玉にしようと思論だったので、女性の出席は2名に終わりました。この金の澤さんは、「イチロー対談」にも加わり、イチローがプロ野球選手を決定した小学6年の日記を朗読しました。期せずして会場からは彼女を声援する暖かい拍手が、湧き上がりました。最大の目玉となった「イチロー対談」の仕掛け人は、実行委員会の杉本さんの尽力でした。

・宮本大学長と

北村経済学部部長が来賓される

総会は定刻どおり午後6時15分より開催され、吉田支部長の挨拶も多数の参加者に心強く挨拶され、いつもはやや閑散とした総会は、熱気さえ感じるほどでした。

この雰囲気伝わったのか、次に登壇された来賓代表「宮本大学長」様の挨拶が、滋賀大学の行く末を案じてか、国立大学の命運について熱弁を振るわれました。

多分、学長の心の中に国立大学の

命運を自分が見届ける気持ちがあったのでしよう。熱弁は、5分の予定を大幅にオーバーして20分に及びました。我々もこの問題については関心が高く、歴史ある彦根高商・滋賀大学の名を是非残すべしと祈るばかりです。

・イチローは子育ての天才か

特別対談は、初のOB女性司会者の金の澤さんの紹介が始まり、総司会の吉田支部長、仕掛け人の杉本氏、更に金の澤さんも加わって、とても和気藹々の打ち解けた対談となりました。その話題のポイントは次のような内容でした。

・イチローの才能は、見込んでいたのだが、その育て方がまさにイチローと一心同体の遊び心で共に楽しみながら、イチローの心技を高めていった。

・イチロー自身が野球少年であった事。イチローには目指す目標の人物が居た。

「高木利武」氏(東海高校野球部→慶応大野球部レギュラー→現東芝常務)・イチローのドラフト時の希望球団は「中日ドラゴンズ」だった。

等等など話題は尽きなかったのですが、限られた時間の中でぎりぎりまで対談を進められた吉田支部長の話法は

見事でした。更に、驚いた事には、イチロー打率当てクイズで6月7日時点の高打率「3割8分4厘」のピッチャリ賞が出て、これを聞いたイチローが特別賞として、貴重なイチローメモリアルテレカ(時価10万円?)が、当選者の「上中健人(うえなか たけひと)(大21回)」に贈呈されました。

・懇親会の目玉「陵水名古屋男声合唱団」の初披露目

盛り上がり頂点懇親会は、立食パーティー形式で自由に懇親を深めていきました。

会は陵水会本部の岡田理事長の挨拶、北村経済学部長の近況報告があつて、井澤大先輩(高商21回卒)のいつもながら高らかな乾杯、御発

声で佳境となりました。終盤から、昨年発足したばかり「陵水名古屋男声合唱団」の歌声が、さわやかに響き渡り、曲目も「琵琶湖周航の歌」等4曲を披露し、そのまま「高商校歌」、「徳聖寮歌」、「滋賀大学校歌」と全員の合唱へと盛り上がっていました。

そして、新入会員3名の紹介、来年度実行委員の紹介、決意表明が行われました。

締めくくりは、最長老の「水野稔氏(高商20回)の非常に元気な、ながい言葉を拝聴して、まだまだ未練を残しながらの閉会となりました。

終了時間は、午後9時30分でした。(文責 実行幹事 吉田 稔)

支部長 吉田 宣正

ご挨拶

今年の夏も、昨年同様大変暑い日が続いています。皆さんお元氣にお過ごしですか。

6月7日に開催しました陵水会名古屋支部総会は、200人を超える会員のみならずにご参集いただき、盛大に催すことができました。これも皆様方のご支援、ご協力の賜物と厚く感謝します。特に15回卒と25回

卒の方々には、会を盛り上げるための企画から人集めまで、大変なお骨折りをいただきありがとうございます。

イチロー選手のお父さんから、彼の子供の頃の興味深い話や聞けましたし、合唱も日ごろの練習の成果が発揮されました。また、名鉄の金澤さんには、美しい声で司会をして

いただき、会に華を添えることができました。

名古屋陵水会のメンバーは、新入の入会によりすこしずつ増えます。それに連れ、総会の出席者も増え、日ごろの活動も活発になっていくといいですね。来年の総会は、今年より盛大になるように、15、25回卒の方は1年次下の方へ、総会の幹事をバトンタッチして下さい。

さて、滋賀大学の将来について、日経・朝日が記事にしていますが、滋賀医科大との統合以外に、京都の2大学の名前もあがっています。

皆さんはご自分の出身校の将来に大いに関心があり、それぞれご自分の意見をお持ちのことと思います。

私が皆さんの意見を聞いた範囲では、たとえば欧米では○○大学○○校といいますが、要するに「経済学部を彦根に置いておきたい」という一言に尽きます。

宮本学長、北村学部長が各地の陵水会に精力的に出席され、われわれの意向を十分ご理解のうえすめられていきます。大学当局の確かな方向づけと、適切な結論を期待して見守りたいと思います。

さて、私も名古屋陵水会の役員としての役割は、この会の活動を活発にすることです。しかし、今更申し上げるまでもありませんが、活動資金は乏しく、事務局もなく、皆さんの自活性に期待する以外ありません。陵水亭、ゴルフ大会、コーラスなどに積極的にご参加いただきたい。新しいことも始めていただきたい。

たとえば京都・大阪支部では、税理士・会計士さんが集まり「会計人会」を作られています。

良いことは真似をして、名古屋支部でも有志が集まり作られてはどうでしょうか。

また、コーラスと同じような同好会をつくって楽しんではどうですか。囲碁、映画、食べ歩き、ウォーキング、写真、居合、ヨガ、アンティークなどテーマはいろいろあります。

ただし、どなたか中心になって進める人が必要です。先ほど申しましたように、資金はありませんが、会員間のネットワークがあり少しはご支援できると思います。会員の中にそれぞれのテーマに永年関わってきた人がいると思います。

どなたか挑戦してみてください。では、暑さに負けないよう、ご自愛ください。

楽しくやろう！OB会 幹事長 倉坪 和久(大13)

一昨年「幹事長」を引き受けてからずっと、これをモットーに行動しています。

個人的にも、あまり堅苦しいことは不得手なので、地のままに、気楽に、皆が楽しめればそれでいいじゃないくらいの気持ちで幹事役をやっています。

OB会には一通り考え方があろうです。

- 1 たかがOB会
- 2 されどOB会

うち「1」を重点にやっているわけで、そのせいか、会の内にもホッととした感じが漂いはじめて、若い会員各位もすこしづつ近づいて(？)くれはじめています。

一例ですが、「総会」担当の学年各位が当初も緊張感はかなりのもので、いろいろ相談あつて話す文句はいつも決まっています。

初企画！チチローを囲んで特別対談 「我が子イチローを語る」

我が子イチローを語る

・チチローこと鈴木直之氏をお招きして、吉田支部長、杉本氏と大いに語り合う。司会金澤氏(初の女性OB)も参加

「たかがOB会。総会も、皆に楽しく感じてもらえればそれでいいじゃない。そのために高い(?)会費を払って来てくれるんだよ、きつと」これで、担当各位の顔がホッとゆるんで、前へ進んでゆきます。

1と2、本当はどっちがいいのかわかりませんが、すくなくとも私の知るかぎりであれば「名古屋」の会員各位は大先輩はじめ皆気さくでいい人ばかり……あまり堅苦しく形式主義でない方が肌合、そのように感じています。

もちろん基本ルールはおのずと守った上で、大いに気楽で楽しい、二〇〇〇人余の仲よしクラブのお手伝いを今年もやっていきたいと思えます。

月例の「陵水亭」(別記)参加をはじめ、各位のご協力、お引立てをよろしく願います。

初の女性卒業生による高会

これも200名近い満員の熱気にやや緊張しながら始まりました。ところが、彼女を声援する暖かい拍手も起こって、和やかな雰囲気の中でスタートしました。口火は、吉田支部長の質問から滑らかに始まりました。吉田「まずは、本日は是非「お父さん」と呼ばせていただきます。とっかかりですから、お子さん(イチロー)の中学生の頃までの生い立ちとどうか、苦労話などお聞かせいただけますか」

チチロー「生まれたときは4280gと大変大きかったです。子供の頃は大偏食家で萌やしのようにヒョロヒョロでした。性格も我がままに育っていました。

名前は次男なのに一朗とつけました。どうして一朗なのか、長男は一泰とつけましたが、これは第一に安泰でありますようにという気持ちでした。

イチローが生まれた時は、自営業を始めており、後継ぎとして長男がいましたから、この子には自由にやらせてやろう、型にとらわれないように、次男だから次郎ではなく、とにかく型にはめない次男として「一朗」と名づけました。

小学2年には一人前にキャッチボールができるようになっていました。小学3年からは、部活があり、何かに入ることになったのですが、部活に野球が無くて、何をやりたいかイチローに聞くと「僕は野球がやりたい」と言う。毎日でも野球がやりたいと言った。

2、3歳の頃から私のひざの上でテレビの野球を見ていたし、幼稚園に入っても野球が好きになっていました。豊山町にはスポーツ少年団と言う日曜日の野球活動の団体があつて、とりあえず、3年生になってスポーツ少年団に入りました。

でも毎日野球をやりたいと言うから、ある土曜日の午後、お母さんと兄のいる前で毎日毎日マンツーマンで小学6年まで練習をやるが、約束を守るかと念を押して始めました。これがイチロー野球人生の始まりかなと思うし、この約束を一日も破らなかつた。

この時から、約束を守り通す我が子「イチロー」との闘いとも言つべき本格的子育てがスタートしました

吉田「皆さんから一杯質問があつて、何ページにも渡っていますので、大切な内容に絞って質問させていただきます。私も二人の子供がいます

が、子育てが一番難しく親としては一番大切なこと、小学生の時の子育てのポイントは？」

チチロー「この子は野球が遊びになっていました。小学2、3年の頃、小松、田尾選手になりたいと言っていました。そしてその為に野球をやりたい、練習をやり続ける気持ちで大事にしてやる。それが私の一番気を使った事ですね。」

毎日60M四方の町営グラウンドで練習をやっていると、毎日仲良くできる日ばかりではない。そんな時に、せっかくなり掛けた事ことだから、「やだよ！」とか「お父さんとやりたくない！」と言う気持ちが起きないように、何とか毎日がやりがいに繋がるような気持ちを持続させるような気遣いをした。毎日が楽しくできるうちに、その中で運動だけでは将来どうなるかわからない。中学までの義務教育の間は、しっかりと勉強しないと、悪い事は悪い、人に迷惑を掛けてはいけないと言っただけは、当然親の背中を見せて、且つ、言っただけで身につけさせてと言う私の毎日のやり方ですね。」

家庭生活の中でも、良い事悪い事のケジメがつけられるように躾てきました。」

「本当に面倒見の良いお父さん」

吉田 吉田支部長感嘆の声あげる

吉田 「奥さんもシッカリされてるんですね。」

チチロー 「イヤーこれまたお母さんが無茶苦茶なんです。このお母さんがあるから、今のイチローが出来たんです。このお母さんがイチローの嫌なものをおかずに作るんですよ。野菜でも、てんぷらでも。でもイチローは絶対食べないんです。これを見てお母さんは泣いていました。」

これに対して長男は我が家の貧乏暮らしを知っていますから、何でも食べるし、良くわかっていました。イチローは自営業で少し生活も良くなってから生まれたから、すっかり我がままに育ってしまった。だからこのように食べないと、私はイチローの食べるものを買いにスーパーへ行くのですよ。面倒見が良いというより子供に何か食べさせないとかわいそうだと言う気持ちなんですけど、お母さんは二度と行きませんよ。私は見かねて車で三つ飛んでイチローの好きなマグロ、刺身を買って行くんです。肉ですと牛のステーキ、イチローだけでなくお兄ちゃんの分まで買ってくる。非常にムダ使用のようですけど、私の考えの中ではプ

ロ野球選手になるうねという時に、嫌いなものを無理やり食べさせるほど栄養にならないというのがありました。いくら栄養が偏っても好きなものをドンドン食べさせた方が、この子の栄養になると言う私の考えですね。」

但し、イチローに言っただけで聞かせた事は、将来プロ野球選手になれたとしても、こういう生活をしていたら他のプロ野球選手に負けるよ。体力的に勝てないよ。必ずバランスの良いものを食べないと負けてしまうよ。ただ、私としては、自分が食べたいなあと言っただけで済ませるまでは、我がままな生活でも良いと言う考えだったんですね。」

案の定、高校からドラフトにかかってプロに入った頃から自覚が出てきて、今では野菜等バリバリ食べるんです。つまりお母さんが作った嫌いだっただけを、今は大好きなようにして食べてますね。それでなければプロでは勝てないよと言う意識は持たせるようにしました。」

「ここで、秘中の秘」の質問をこの対談の仕掛け人杉本氏が投げかけます

杉本 「昭和35年の東海高校は武道が盛んで強かったですね。」

「昭和35年と言うと高校3年の時ですね。」とお二人同時に発言。さすが同窓生！

杉本 「剣道は二年連続インターハイ、柔道も10年連続、弓道も……武道は強いと言われていたんですが、野球は一回ボールの代表的なクラブでした。ところが、昭和35年は恐ろしい事が起こったんです。この東海高校が快進撃を始めたんです。アレヨと準決勝まで行った。(残念ですが決勝には行けなかった。)

場所は中日球場でその時の選手がこの「鈴木宣之」さんでした。ひよつとしたら、あの興奮、感激のルツボがイチロー選手育成に乗り移ったのではないですか？」

チチロー 「ところが東海中学時代は野球はやらなかったんです。自分は小学生の時は、野球部に入って野球少年だったから、中学でもやりたと言ったら、親が反対しました。東海中学はどういう学校か知っているのか、運動する為に行っただけじゃないぞと言う事で親が野球部に入らせてくれなかった。中学から高校に進学して、また、野球をしたという気持ちムズムズと沸いて来て、たまたま、一年のときにクラス対抗ソフトボール大会があって、その時



に今話のあった、愛知大会準決勝のピッチャーとして投げぬいてきた伊藤正道と同じクラスでしたが、野球部員は審判で出場出来なかった。私が選手として出場し、その正道の前で簡単に良い当たりを打った。それを見て正道は「おい！宜之結構やるじゃあないか、野球部に入れよ」と言う言葉で野球部に入る事になった。その野球部の中にもっと素晴らしい選手が居た。東芝常務になっていた高木利武と言う選手だ。彼は遊撃手でモヤシみたいな体格で、素晴らしい選手で、イチローの体格とそっ

くりだった。実は、その高木利武(リブ)が高校の時一緒にやった選手として、私の頭の中に残っていた。そして、子供が出来ても高校のリブの姿が焼きついてた。

そのリブが慶応大学へ行ってレギュラーをとってしまった。プロ野球になれたらどうと言うリブが、イチローを育てる為の良い見本と言うか、比較材料になっているんですね。」

スポーツ少年団に入って、私もチーフとなってイチローと共に4年間やってきましたが、3年生で入団して1年経って4年生になった時にイチローにはつきり言っています。高木利武(リブ)の事について、

「高校の同級生にこんな選手が居た。彼はプロ野球でやれる力を持っていた。その彼より4年生のおまえの方が、すべてに優っているよ。」と行ってやりました。そして、さらに「ボールに対するバットさばき、守備のグラブさばき、或いは、投げるフォーム、ボールの回転、などイチローのほうが優っているよ。一生懸命やいなさい。必ず、プロ野球選手になれる。」

とイチローが4年の時にやりがいに繋げる言葉だったのです。但し、一つだけこれではプロにな

れない事がある。これは長く覚えておきなさい。もやしみたいな身体つきだから、プロ野球選手となつてみんなに負けない為には、何でも食べなきゃあいけないよ。」自分の意識、自覚も大切だよと言うのが私のイチローに対する口癖でした。

「これを聞いて、イチローは毎日の練習にまい進していったような気がします。」

優秀なイチローは、高級官僚か、世界一のプロ選手か

吉田 「ここでちょっと嫌味な質問を一つ。」

イチロー選手は、学校の成績が一番だったとか。大学へ行って官庁とか企業へ就職するか、世界一の選手になるかイチローの決断もあるでしょうが、親としての決断の迷いもあったんじゃないか？」

チチロー 「実際ありました。義務教育の段階では、勉強も一生懸命やっただけで、困らないように文武両道が私の考えでした。高校へ進学する時には困った。中学の校長先生の思いやりだったんでしようが、校長先生の言葉は、将来は進学校へ行って、東大へ行かせたほうが良い。」

でした。ここで、小学から中学3年まで毎日イチローと共にやって来た

野球に対する気持ち、情熱を断ち切るか、このまま野球を続けるか、二者択一の時でした。

そこで決断した事は、イチローが小さい時から一番強い高校をやぶって甲子園に行きたいと言う表現を、小学時代から言っていた。ちやうどその時、愛知県下で二番手、三番手の名電高を世話してくれる人がいました。たまたま名電高出身の近所に住んでいた水野さんでした。野球を続けるなら名電高へ来ないか」とこれは私たち親子の気持ちと一致したのです。

寮生活と言う事もあって、3年の夏練習が終わったから名電のグラウンドを見に行きました。高校野球にはもったいないような素晴らしいグラウンドでした。そんなグラウンドにすっかり惚れ込んでしまいました。

将来は何かとつらい事があり、寮生活もつらい事ですが、それも考えなくて、すぐお父さんここに入る。」と決めてしまったんです。」

ここで、吉田支部長がいよいよイチローのブルブル進路について質問しかけたのですが、チチローの我が子イチローへの思いが強く、さらに小学から高校の大問題を語り始めたのです。チチロー 「二人で毎日毎日練習していて、親子関係がますますなる時が

あったんですが、どういいう解決策をとったか、親として何をやらなければならぬか。

お互いに非常に頑固者です。夕方になるとイチローは、「一休さん」とか、「サインはV」とかテレビ番組で気になる時があったんです。その気持ちが練習中に出てくると、「そんな約束ではなかったらう」とボールを投げつけてやりました。

そんな事が続いた夜、そんな状態ではいかんと思ひ、何かしなければと言ふ気持ちで、小学3年のある夜、先に床にいたイチローのかわい

足を私の膝の上に乗せて揉んでやるスキンシップをしたんです。お父さんが怒ってしまつてごめんな。と言ふ気持ちで指先からイチローに伝わって行つたと思ひます。イチローも「お父さんは許してくれてるんだ」と言ふ気持ちになつていたと思ひます。ただ、イチローも「ごめん

なさい」とは言わない。このスキンシップが親子関係の絆を保ち続けていってくれたんじゃないか。

ここで大事な事は、毎日同じ気持ちで町営グラウンドで野球が続けられる事なんです。それでも、「今日はもう絶対揉んでやらんぞ!」と言ふ気持ちの時も

あった。お互い布団をかぶつて寝てしまふんですが、それでも私も、イチローも布団の隙間から相手を見て

いるんです。それでもこちらはやってやるかと思ふんですが、イチローが布団からはみ出した足をバタバタさせるんです。これをやられると親は参つてしまふんです。そこで洪々やつてやるんですが、先ず始めに「パチン」と思ひつきりイチローの足裏を叩いてから始めるんです。イチローも悪いと思つてゐるから、叩いても決して怒りません。

こうして、この足揉みが高校生となつて合宿所に入寮する前日まで続きました。これはやつて良かったなあと思つてゐます。

いよいよ時間も無くなつて来て最後の質問になりました
杉本 「頭角をあらわし、見事に実力を発揮され、若くして有名人となられたイチローですが、インタビュ

ーに対する姿勢はいつも謙虚で、奢るところが無く、多くの名選手の中で

は珍しい存在ですが、ここは、父親鈴木宜之さんの特別な指導方法があったのですか？」
イチロー 「これに答える為には、私自身の子供時代から話さなければなりません。親の勧めで東海高校へ

入りました。本来懇親会の目玉にしていました。本来懇親会の目玉にしていました。本来懇親会の目玉にして

ました。本来懇親会の目玉にしていました。本来懇親会の目玉にして

ました。本来懇親会の目玉にしていました。本来懇親会の目玉にして

ました。本来懇親会の目玉にしていました。本来懇親会の目玉にして

ました。本来懇親会の目玉にしていました。本来懇親会の目玉にして

初参加で大役：今だからお話できること

ある日、会社の上司で、大学の先輩でもある部長にお茶に誘われたときのこと。「ちょっとお願い事があるんだけど...」と言われ、「何かな?」と

軽い気持ちでいた私に部長は、「実は今年の名古屋水会への幹事をやって

行つた事が、後から大きく影響する事になった。それでも社会人になつて、結婚して、元気なうちは何も考えなかつた。ところが、あるとき肺

結核で倒れてしまいました。一年半

病室生活を送りました。その療養生活から退院して来てから、私の気持ち

が「ガラッ」と変わりました。

ある百貨店へ行って一本のテープを見つけた。林憲法先生、東

海高校の校長先生のテープを売って

おりました。それを聞いて高校時代に教えられた事が、改めてテープによつて再認識されたのです。その

テープによつて、自分ひとりで生きて

いるのではないよ、皆さんのお陰

で生きているんだよ、生きると思

ひを、テープから改めて教えられた

んです。これが一番の基礎。子供に対する気持ちの基本になつて

います。長男の時は、病で倒れる前

だからここまで思つてないんです。病で倒れて1年ちよつと経つてから

似てよい、よい事は真似しろと言ふ意識でやっていました。勉強でも、

運動でも、良いところは何でも人の真似から入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

イチローを育てるのもそうでした。先ず何でも良いところは人の真似か

ら入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

性格は似ているんですか?」
イチロー 「ちよつと困つた質問ですね。似ていると私も我がままだといふことになるし。まだまだイチローは一人前ではありません。世間では世界一とか言われていますが、それはまだ親の気持ちを理解して

いないと言ふことです。結婚はしていませんが子供がいない。自分もそうでしたが、子供を持つて初めて親の気持ち

がわかるんです。赤ちゃんを持つて親の苦労がわかる。だから早く孫の顔を見せてくれよと言ふのが私の願ひです。」

イチローさん、女性を目の前にして、か、すつかり父親になられました
吉田 「時間オーバーとなりましたが、有難う御座いました。中日ドラゴンズに何故入らなかつたのかとか

まだまだ質問したい事は一杯ありますが、締めくくりにイチロー小学校

6年の作文「夢」を、金澤さんに朗読していただき終わりにさせていた

だします。
金澤さんのすんだ声で朗読。会場は一瞬水を張つた湖面のように静まり返りました。

さらに、最終でハブニングが起りました。本来懇親会の目玉にして

いた「イチロー打率当てクイズ」で、なんとピットリ賞が出たのです。こ

れを聞きつけたイチローが是非その方に特別賞を贈呈したいと言ふ事

で、大学21回卒の「上中健人(うえなかたけひと)」さんが「3割8分4厘」の高打率を予想、壇上に紹介されイチローから特別テレフォンカードが贈

られました。
約束の45分は10分ほどオーバーしましたが、それでもまだまだ時間の

足りない、判りやすく楽しい対談でした。最後は、女性司会者まで巻き込んだ4者対談、これは本場に難しい対談形式ですが、吉田支部長の絶妙の進行役を演じられ素晴らしい特別対談となりました。

初参加で大役：今だからお話できること

ある日、会社の上司で、大学の先輩でもある部長にお茶に誘われたときのこと。「ちょっとお願い事があるんだけど...」と言われ、「何かな?」と

軽い気持ちでいた私に部長は、「実は今年の名古屋水会への幹事をやって

行つた事が、後から大きく影響する事になった。それでも社会人になつて、結婚して、元気なうちは何も考えなかつた。ところが、あるとき肺

結核で倒れてしまいました。一年半

病室生活を送りました。その療養生活から退院して来てから、私の気持ち

が「ガラッ」と変わりました。

ある百貨店へ行って一本のテープを見つけた。林憲法先生、東

海高校の校長先生のテープを売って

おりました。それを聞いて高校時代に教えられた事が、改めてテープによつて再認識されたのです。その

テープによつて、自分ひとりで生きて

いるのではないよ、皆さんのお陰

で生きているんだよ、生きると思

ひを、テープから改めて教えられた

んです。これが一番の基礎。子供に対する気持ちの基本になつて

います。長男の時は、病で倒れる前

だからここまで思つてないんです。病で倒れて1年ちよつと経つてから

入つていって、ついに、自己独自の物を出しなさいというのが、イチローに対する私のやり方でした。

平成14年
 6月22日(土) 7月19日(金)
 8月24日(土) 9月21日(土)
 10月19日(土) 11月16日(土)

〈開催〉原則 第3土曜日
 午後6時30分
 〈会場〉名古屋のど真ん中
 「唐観月」(次図)
 〈会費〉5,000円(飲み放題)
 〈開催〉

当支部では毎月一回、交遊サロンを開催しております。
 滋賀大学OBであればどなたでも出席自由ですので、気軽に集まって大いに飲み食いしながら、楽しいひとときをお過ごしください。お待ちしております。
 きつと意外な人にも会えると思いませんか。

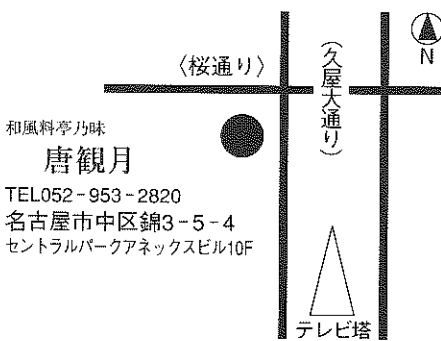
交遊サロン「陵水亭」

2002年「陵水会名古屋支部総会」実行幹事

(大学15回卒)

石田正彦	豊和工業(株)
柴田 勉	愛東運輸(株)
清水 宏	高島屋日発(株)
杉本佳彦	松下電工(株)
杉山皓造	ミツカンG(株)
関谷嘉哉	中電ビル(株)
長坂重信	名古屋鉄道(株)
小野和彦	ニッセイ同和(株)
村瀬英己	豊田紡織(株)
森野行雄	(株)あいんシステムズ
吉川陸男	豊田通商(株)
幹事長 吉田 稔	ミツカンG本社(株)

(アイウエオ順)



和風料理 唐観月
 TEL052-953-2820
 名古屋市中区錦3-5-4
 セントラルパークアネックスビル10F

平成15年
 1月18日(土) 2月22日(土)
 3月20日(土)
 ※会場入口で「陵水会」を名乗って下さい。

ローマよりナポリを結ぶ梨の花
 イタリア旅行の折、ローマにて。
 紀元前三百年頃作られたアッピア街道か。石畳の堂々たる道の両側に真白の梨の花が咲き作者は往時を偲ぶ。

陵水俳壇

大五 南野輝久

選評 伊與正道

灰ぼとり形消え行く涅槃かな
 煙草の灰がぼとり落ちた。今日は釈迦入寂の日。形あるものはみな消えて行く此の世の定めを、日常の一瞬に見た。涅槃は春の季。

逆巻きて舟べり洗ふ雪解川
 大五 柴 宗平

名古屋陵水会ゴルフコンペ

第46回名古屋陵水会ゴルフコンペ
 ならびに支部長杯取りきり戦のご案内
 会員各位におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
 さて、恒例となりましたゴルフコンペも荒島先輩並びにメンバーの方々のお骨折りによりまして今回も開催にこぎ着けることができました。紅葉に染まった木々の色を楽しみながら、旧交を深めるために秋の一日を過ごしてみませんか。今回は、あわせて過去10回の優勝者によります優勝カップ(支部長杯)の取りきり戦も開催されますので、特に優勝経験者の方は是非ともご参加くださいますようお願いいたします。なお、実施要領は下記のようになっておりますので、ご参照のうえご参加くださいますようご案内いたします。

日時：平成14年10月19日(土)
 午前8時40分集合
 9時20分スタート
 場所：東名古屋カントリークラブ
 〒0565-4811-331
 東コースでアウトとイン同時スタート
 会費：メンバー 1万3千円
 ビジター 2万5千円
 申込：幹事に電話で連絡
 その他：競技方法などの詳細は幹事に問い合わせてください。
 第46回幹事
 西村泰徳(大9回)
 ☎059-1232-2923
 志賀康仁(大35回)
 ☎090-4080-2617

平成13年度陵水会名古屋支部会費納入者一覧表

卒回	氏名	卒回	氏名
本2	小鹿信治	12	久野紀、藤村勝利、山田正治、古田公三、吉田忠、杉江一広、高野悟、加納鉦二、木村哲也、国立徹、坂井昌治、榊原昌夫、田中慶一郎、牧野圭壯、水野浩、鬼頭時夫
6	岩波重三	13	大竹雅司、角井正澄、後藤一而、佐橋孝、大橋輝彦、兵藤雅徳、中村修一、尾形榮一、倉坪和久、山田建造、吉野裕次郎、小木曾靖、丹下義友、嶋津導彦
7	吉田正巳	14	望月弘隆、石倉雅夫、松木浩、石原秀夫、市川弘幸、岡村明光、奥谷弘和、伊藤仁隆、青山一暁、牧野安宏、山中正行、阿知和修、太田幸一、梶田富久、花井寿一、古橋功朗
13	若杉礼三	15	伊藤英雄、室殿智秀、森下昭造、吉田稔、森野行雄、吉川陸男、万年敏久、長坂重信、村瀬英己、杉山皓造、清水宏、杉本佳彦
14	杉山一雄	16	峰須賀聡太、深谷徹、堀場文夫、辻本勲、木村征司、桑山邦彦、藤原成幸
15	土屋武夫、杉山茂	17	阿多博之、川口暢之、篠瀬悠紀夫、青山政弘、岩田政三、村上春美、伊藤信行
16	小島忠	18	西尾達彦、川上良彦、山下松志、松林茂晴
17	野沢信男、伊藤文吉	19	江口正美、板谷憲治、山口隆、伊藤恵治、丸岡勢一
18	清水豊、太田寛	20	村山明司、山内薫、中村暁、杉谷哲夫
19	吉田稔、高橋水吉	21	志知明善、松下和久、野寺賢二、大島博、馬場良樹、脇田秀昭、今井田昭三
20	若松信重、後藤貴雄、榊原明、水野稔、浜本洋	22	加藤隆英、高山稜、富田修、大山能孝、太田孝夫、三輪直樹、竹内伸治、田中和明、山内佳紀
21	森田一雄、井澤慶一、杉浦弘、荒島保	23	近藤(神谷)一菜、則武拙作、牛田好紀、吉田誠、大海光男、宮崎陵山、浅野寛治、河合俊三、平手博幸
22	前畑成温、大橋延世、服部明夫、瀬尾且二、所鉦一、大脇昭三、大森守康、浅井勝己、浅野恒彦、垣本武郎	24	尾坂弘吉、三矢誠、榎本尚哉、佐藤吉徳、渡辺暢彦
23	七家亘康、大橋芳夫、水野庄平、中川松樹、吉井平一、鈴木貴晴、片山恭男	25	藤井達雄
24	山口要、河野幸雄、林哲郎	26	
東1	森田三郎	27	
2	下山善弘	28	青山龍也、神尾博孝、加藤孝、加藤貴典、久野直人
3	香名貞雄	29	兼松賢、増田憲彦、野々村昌治、村瀬仁心
4	矢島和男	30	加藤素久、原一宏、小木曾郁也、本藤修一、奥川正朗、加藤裕治、仲川毅、久田寿一
5	吉川孝一	31	橋本衛、刈谷建、高橋孝治、内田誠、沢井俊洋、高林宏至
工1	松井淳之、樽田昭治	32	杉田忠夫、橋田幸治、河辺昭宏、松坂宏樹
2	山口孝夫	33	河合隆広
別1	下郷三五郎	34	河合伸幸、丹下英幸、堀川益夫、清水厚男
大1	矢野浩一郎、岡島晃豊、久保馨、中山修	35	三村祥章、北村裕幸
2	渡辺正和、棚橋平蔵、福田重光、加藤昌彦、河合万之助、伊藤道夫、木村善雄、山口修、鹿野磯夫、伊藤良蔵、伊神英文、鷺尾幸三	36	吉村公成、春田猛、永井尚徳、小島之尚、南出政雄
3	鬼頭聖宜、河部好範、石黒雅俊、福本利雄、井寛英之、横関不二男、田中繁次、岡田一、水野敏郎、柴田英正、石川茂行、吉田全宏	37	日比野厚、村上忠弘、夏見和史、奥休場孝治
4	星川康次、石井正樹、鈴木俊彦、中嶋宗嗣、祖父江清治、加藤源一郎、柴山達夫、近藤勇雄、河野洋久	38	柴田尊利、松本康弘、小田島水、西田和人
5	船橋正俊、亀井正幸、森照明、山本勲、柴宗平、南野輝久、臼井靖二、高橋亮三、中野庄一郎、近藤実、清水有、浅井勢士	39	浅井俊博、木村雅昭
6	福住政信、牧野良三、岩田修司、加藤功、青井春美、宮本勉、豊田一利、久保昭、石橋政雄、市村仁、伊與正道、香名敏郎、七里年昌、北井美雄	40	稲垣明知、小倉健二、樹下英紀、堀江慎一
7	川瀬泰、長谷川富三、神谷慎太郎、高梨勲、松田俊一、井上潔、河村実鏑、清俊三、坂清司、橋本英一郎、松島利一	41	朝倉秀樹、吉長太郎
8	久野勝利、松下好弘、堀田隆幸、宮川益雄、鍋野可幸、中島孝宣、栗田憲司、木村秀夫、吉田宣正、吉田正克、伊藤英夫、山本文雄、寄田昌二、脇田佳男、木村芳夫、布藤久夫	42	坂野正幸、長瀬昌彦、安藤弘喜、船橋浩史
9	堀満、杉田嘉隆、清水吉男、山中桂、鈴木俊明、大西敏隆、後藤寅二郎、加藤伸、榊原寛、坂東史雄、西村泰徳	43	安井正人、金沢清美、林利典、小林靖
10	堀田隆久、鷺見公嗣、間瀬俊彦、西村信亨、上原信彦、小島興一、鈴木清司、大野真一、山本勉、浅田為正、桑原誠、辻俊明	44	坪井泰憲
11	鶴森昭雄、赤坂郁昌、小林雍正、山村大二郎、内藤嘉美、築山宏一、細瀬裕達、田中孝行、一柳善郎、村瀬彦彦、米山宏治	45	
		46	熊崎博規、鈴木豪一、白浜千鶴
		47	羽佐田高志、河野充真
		48	
		49	恒川典久、梅本寛太
		短2	北村治孝
		4	寺倉幸夫
		7	林昌宏、大橋重和、長谷川信三
		24	大塚善人

早春木曾川吟行。雪解けの急流をライン下りの舟が下って行く。瀬にか、ると波は逆巻いて飛沫を拳げる。雪解川は春の季。

清明や鶴籠も薪も乾きぬて
長良川畔吟行。清明は二十四氣の一つで四月五日頃。鶴籠の用意に鶴籠の庭に鶴籠や薪が干されて居る。清明の季語と情景がびたりと合っている。

ルビー婚南十字の星を見て

大六 石橋政雄

作者結婚后四十年の日を二人でニュージールランド旅行。夏空を彩る南十字星の下でしみじみと語り祝ったのだろう。子等も成人し幸せな二人の夜が目に見える様だ。季は夏の季で星祭、星合があるの

有松の山車に開くや虫籠窓

有松の山車に開くや虫籠窓

虫籠窓は宿場町など古い家並に残る虫籠の様にこまかい格子をはめた窓。折しも夏祭りで山車が通りふだんは開いていない虫籠窓が開いて子どもたちがのぞいている。東海道有松宿の祭りの様子が虫籠窓で生きて来た。季は山車で夏。

短二 斎藤武司

空梅雨の畑一斉に撒水機
今年の夏は暑い。梅雨も雨が少な

く畑はカラカラ。そこに撒水機が水を撒きはじめると、あちらでもこちらでも始った。撒水機の俳句は珍らしい。季は梅雨で夏。

祖母の忌の膳に添へたる梅一輪

祖母の忌で読経のあと縁者一同食事の膳につく。膳の一つひとつに梅の花一輪。祖母が愛でた花だったのか庭の老木を大切に居られたのか。ほのぼのと故人を偲ぶ家人の気持が伺われる。季は梅。

大六 伊與正道

梅二月浮かびて消ゆる旅ごころ

梅がもう咲きはじめた。春のおとずれも近い。そろそろ何処かへ出かけた。しかしまだ寒そうだから三月にするか。そんな心の動きを句にしたもの。季は梅。

青柳の武者絵の緑五月来る

中津川苗木に近代日本画の前田青柳の記念館があります。小さな美術館で展示品も二十点程ですが、武者の絵の緑の色彩に目を奪われました。外に出ると新緑の山々につまれ、楽しい一日でした。

毎月一回(原則第一土曜日)鳴海生涯学習センターで気楽な句会を開いて居ます。どなたでもご参加下さい。

幹事 伊與正道
電話0565-3512727

陵水名古屋男声合唱団の現況とこれから

企画担当 近藤実(大5)

陵水名古屋支部の皆様の援護を頂き、昨年九月に発足したばかりの合唱団ですが、去る六月の総会の席にて初ステージを持たせて頂き団員一同大変感謝しております。

ステージの出来ばえについては、未熟さが目立ち汗顔の極みですが、反省点を充分認識し、次回にはと、



前向きな姿勢で新しいステップに足を踏み出しています。

さて、アマチュア合唱団は10年続くかどうかの一つのハードルだと言われています。わが陵水男声はスタート地点に立ったばかりの状況ですが、意気込みとしては、常に継続することのみならず何とか多少ずつでも発展傾向を保っていきたくと考えています。

そこでこの機会に、当団の現況、計画等をご紹介し、広く知って頂くことによって、一人でも多くの同好の士の来たらんことを願っている次第です。

①現況

当合唱団結成のそもそもの発端は、現団長の浅井勢士氏(大5)が五年程前に、グリークラブのOB数名に話しかけたことからです。その後、具体化するまでの準備期間が長くなりましたが、漸く、平成十三年六月の支部総会でスタート宣言をするこ

とができました。

九月の設立総会で当初の登録団員は二十一名(その後多少の増減あり、現在十八名)。

未経験者も元気に楽しく歌う意欲のある方歓迎。

一、団費 一〇〇〇円/月

二、練習 練習曲 易しく美しいアカペラ小曲、他に琵琶湖周辺の曲等

練習日 原則として月二回
指揮 西村泰徳(大9)
富田敏夫(大20)

練習の基本方針 基本を大切に正しく美しく歌うことを目指し、練習を大切にする。

左記のスタッフまたは団員へご連絡下さい。

一、申込み

	(卒業回数)	(TEL)	(FAX)
団長	浅井勢士 (大学5回)	052-806-5489	052-806-5392
指揮者	西村泰徳 (大学9回)	059-232-2923	059-232-2923
//	富田敏夫 (大学20回)	052-722-8363	
パートリーダー	小林雅正 (大学11回)	0568-83-3931	0568-82-1688
//	外山哲男 (大学19回)	0562-48-4367	0562-48-4367
//	上中健人 (大学21回)	0565-26-0522	
企画兼 //	近藤実 (大学5回)	0568-81-4547	0568-81-4547
会計	山内佳紀 (大学23回)	052-761-1358	052-761-1869
事務局	山本 勉 (大学10回)	052-736-5889	

指揮・指導は、学生時代のグリークラブでの経験者が担当することになり、翌年六月の支部総会で初披露をやるう、をスローガンにして立ち上がりました。

練習は、十三年中は月一回、十四年は月二回のスケジュールで実施しました。

練習曲は、六月に歌った「わが歌」

「いざや我等の」「ふるさと」「琵琶湖周航の歌」の他、「はるかな友に」

「希望の島」など、アカペラ男声合唱曲をやってきました。

②当面の活動

合唱に限らず同好会というのはどれも同じで、同好の士が集まれば共通の話題に花が咲く、時には腕を競い合い、時にはお互いに助け合い、そして最後には一杯飲む、という構図で相互の親睦を図るといふ成果を得たりします。

合唱の場合でも、歌うために集まる楽しみ、集まって皆で声を出し合わせる楽しみ。これは一人では体験できない味わい、楽しみです。「十人十色」の言葉通り、本来異質である十人の声が溶け合って一つのハーモニーとなった時、これはまた言葉では表現し難い快さを感じさせてくれます。

しかしそれを暫く続けていると、この感動を少しは人にも感じてもらいたいという手前味噌的な、やや厚かましい様な気持ち湧き出てきます。そこで何かの機会を得て発表の場を持つという目標が生まれ、また、それによって練習にも張りが出るという相乗効果もあります。

例年六月末に滋賀県今津町で、琵琶湖周航の歌・記念事業として「琵琶湖周航の歌・音楽祭・合唱コンクール」が開催されますので当団も滋賀県はゆかりの地であり、十五年六月には初参加し、コンクールに挑戦することを決めました。

また名古屋支部総会には、時間を頂けるならば今後も発表を続けたいと考えています。

練習曲は、男声合唱として親しまれてきた易しい小曲を中心とし、他に琵琶湖周航の歌、滋賀大学々歌等、彦根に関連のある曲もレパートリーに入れます。練習日は、原則として月二回を今後も継続予定です。

練習のあり方としては、初心者も早く中に溶けこめる様に、あせらずじっくり、そして楽しい練習ということを基本にして進め、正しく、美しく歌えることを目指します。

③夢のまた夢

結成一年未満の合唱団が抱く夢としては、少し早すぎて、もっとしっかり内を固めるとお叱りを受けるかもしれません。一応、夢として「陵水会東京、大阪の支部にも合唱団結成を呼びかけ、もしそれが実現すれば、前述の今津の音楽祭に現状の三倍の総勢五十名位で参加したい。」

④団員募集!!

「継続は力なり」ですが継続の原動力は団員です。十年のハードルを越えるためにも、団員の増加が必須条件です。左記に、当団の要項を列記します。一人でも多くの来団をお待ちしています。

一、名称 陵水名古屋男声合唱団 (略称 陵水男声)

一、目的 団員が集まり合唱(練習)することを楽しみ 相互の親睦を図る。

更に東海地区の合唱音楽の分野でも陵水会の元気を示す。

一、団員 原則として陵水会員とし、卒業年次、経験の有無を問わない。

・グリーOB、合唱経験者 者は中核部隊として歓迎。

平成13年度陵水会名古屋支部収支報告書

自 平成13年3月1日 至 平成14年2月28日 (単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	1,930,674	平成13年度総会費用	2,110,214
平成13年度総会会費	1,703,000	「名古屋陵水」発行費	482,825
平成13年度支部会費	742,000	会議費	157,920
本部より補助金	176,000	交際費	40,350
雑収入	101,271	事務費	75,600
		雑費	4,119
		次年度繰越金	1,781,917
	4,652,945		4,652,945

支部会費:2,000円×371名 本部会費:3,000円×369名 (代理集金)

陵水会名古屋支部・支部役員

役職名	氏名	卒業年次
顧問	井澤 慶一	(本科21回)
〃	中山 修	(大学1回)
〃	岡田 一	(大学3回)
支部長	吉田 宜正	(大学8回)
副支部長	吉田 正克	(大学8回)
〃	榊原 寛	(大学9回)
幹事長	倉坪 和久	(大学13回)
副幹事長	岩田 政三	(大学17回)
〃	板谷 憲治	(大学20回)
〃	今井田昭三	(大学22回)
会計幹事	水野 浩	(大学12回)
監事	大野 眞一	(大学10回)

陵水会名古屋支部・本部役員

役職名	氏名	卒業年次
理事(理事長)	岡田 一	(大学3回)
〃(副理事長)	吉田 宜正	(大学8回)
〃	山口 修	(大学2回)
評議員	近藤 勇雄	(大学4回)
〃	南野 輝久	(大学5回)
〃	吉田 正克	(大学8回)
〃	榊原 寛	(大学9回)
〃	大野 眞一	(大学10回)
〃	長谷川信三	(短大7回)
〃	倉坪 和久	(大学13回)
〃	岩田 政三	(大学17回)
〃	今井田昭三	(大学22回)

平成14. 6. 7

【編集後記】

五月某日、本紙の原稿依頼のために、総会の実行幹事長の吉田稔さんをミツカングループ本社に訪ねた。本題に入る前に、「今年はいけますよ」と切り出された。もちろん支部総会への出席者数のことである。十年以上もかかってやっと二百名の大台が達成されることになった。実行幹事の大15回卒生一同のご尽力に心より敬意を表したい。

◆企画力と動員力が決め手となったので、なるべく詳細に本紙に掲載し努力に報いることにした。①イチロー効果、②金澤さん効果、③男声合唱効果、いずれも高く評価されました。もう一度拍手を。

◆陵水俳壇については、読者からの要望もありましたので、主宰者の伊與正道さんへ選評をお願いしました。ていねいに解説されていますので、じっくりと味わってください。編集担当よりあらためて「伊與さんご苦労さまでした」

◆今回は原稿の字数を制限しないで自由に書いていただきました。その結果、当然のことですがスペースが足りなくなり掲載できない原稿も生じました。ご了承ください。